



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10051349 A**(43) Date of publication of application: **20.02.98**

(51) Int. Cl.

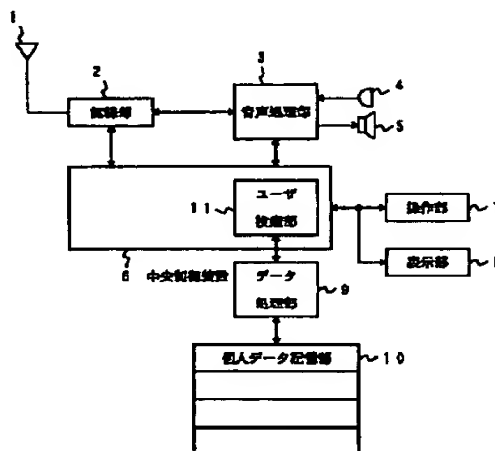
H04B 1/40
H04Q 7/38
(21) Application number: **08203625**(71) Applicant: **NEC CORP**(22) Date of filing: **01.08.96**(72) Inventor: **KUMAGAI KEIICHIRO**(54) **PORTABLE COMMUNICATION EQUIPMENT**

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a portable communication equipment used by a plurality of users at setting in response to each user by providing a storage section managing a plurality of personal numbers and information of a plurality of persons individually.

SOLUTION: A portable communication equipment (portable telephone set) has an antenna section 1, a radio section 2, a voice processing section 3, a microphone section 4, a speaker section 5, a central controller 6, an operation section 7, a display section 8 and a data processing section 9. The central controller 6 controls the radio section 2, the voice processing section 3, the operation section 7, the display section 8 and the data processing section 9. A user retrieval section 11 is installed to the central controller 6. The personal mode is selected by entering a password from the operation section 7 so as to send/receive a PSID(personal ID) in response to the user and data in response to the user are managed.



(19)日本国特許庁 (J P)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-51349

(43)公開日 平成10年 (1998) 2月20日

(51)Int. Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 B	1/40		H 0 4 B	1/40
H 0 4 Q	7/38			7/26 1 0 9 S

審査請求 有 請求項の数3 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平8-203625
(22)出願日 平成8年 (1996) 8月1日

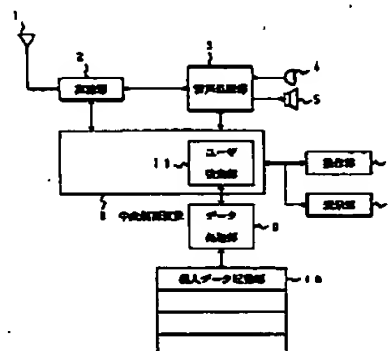
(71)出願人 000004237
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号
(72)発明者 熊谷 敬一郎
東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式
会社内
(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54)【発明の名称】 携帯用通信機

(57)【要約】

【課題】 複数の個人番号及び複数人の情報を個々に管理できる記憶部を持たせることによって、複数の利用者が各々の利用者に応じた設定で利用できる携帯用通信機の提供。

【解決手段】 携帯用通信機 (携帯電話機) はアンテナ部1、無線部2、音声処理部3、マイク部4、スピーカ一部5、中央制御装置6、操作部7、表示部8及びデータ処理部9を有している。中央制御装置6は無線部2、音声処理部3、操作部7、表示部8及びデータ処理部9を制御している。中央制御装置6には、ユーザ検索部11が設置されている。操作部7よりパスワードを入力することによって、個人用モードに切り換わり、利用者に応じたP S I D (個人番号) を発信、及び受信でき、利用者に応じたデータを管理する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも通信機に電話番号等のデータを記憶させる記憶部を有する携帯用通信機において、前記データを利用者毎に記憶できる個人データ記憶部を有し、前記データは利用者毎に設定されたパスワードによって保護、及び管理されることを特徴とする携帯用通信機。

【請求項2】 前記個人データ記憶部は、利用者毎に応じたPSID（個人番号）を備えていることを特徴とする請求項1記載の携帯用通信機。

【請求項3】 前記パスワードは、利用者を判別できる指紋や声紋等に代用できることを特徴とする請求項1又は2記載の携帯用通信機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は携帯用通信機に関し、特に複数人の個人情報を管理できる携帯用通信機に関する。

【0002】

【従来の技術】 携帯電話機で代表される携帯用通信機は、図3に示すように、電波の送受信を行うアンテナ部21、無線信号の送受信処理を行う無線部22、音声信号の各処理を行う音声処理部23、音声の入力を行うマイク部24、音声の出力を行うスピーカ部25、携帯用通信機の装置全体の制御を行う中央制御装置26、利用者からの操作信号を入力するボタン及びスイッチ等を配置した操作部27、表示を行う表示部28、データを蓄積するメモリ部29で構成されている。

【0003】 以上のように構成された従来の携帯用通信機について、以下その動作を説明する。利用者がメモリ部29に電話番号や住所録等のデータ或いは起動時の機能に関する初期設定を入力する場合、操作部27からメモリ部29に記憶させたいデータを入力する。操作部27より入力されたデータは表示部28に表示され、利用者はその表示を確認の上、操作部27よりメモリ部29に記憶させるボタンを押すことにより中央制御装置26が入力されたデータをメモリ部29に記憶させる。また、メモリ部29にデータを追加する場合、上述の動作を繰り返すことによりメモリ部29の空き領域が無くなるまで追加することができる。

【0004】 メモリ部29に記憶されたデータの読み出し、或いは変更する場合、読み出したいデータを操作部27より指定することによって、中央制御装置26がメモリ部29からデータを読み出して表示部28に表示し、表示部28を確認しながら操作部27より変更を行う。利用者は初期設定等の記憶されたデータに関しても同様な動作により確認及び変更することができる。メモリ部29に記憶されたデータはバックアップされ電源をOFFしても消去されず、再度携帯用通信機の電源をONすることにより最後に入力したデータの初期設定の状

態になる。

【0005】 また、特開平6-21884号公報には、有線回線に接続された親機とこれと無線通信する子機とからなる無線電話装置において、子機を複数人で使用する場合、利用者毎の入力した電話番号・初期設定等のメモリ情報を親機の蓄積メモリにブロック化して一括して記憶管理し、親機から子機に転送して子機のメモリ情報の内容を入れ換えることにより、個々の利用者に応じた子機の電話番号・初期設定等のメモリ情報を設定することができる無線電話装置が提示されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の携帯用通信機では、1台を複数人で使用した場合、利用者毎に管理できる記憶部を有しておらず、また、基地局に発信できる個人番号は1台に1つしか有していないので、複数人で使用した場合でも基地局では利用者が誰であるか判断できないため、それぞれの電話帳や通話料金などを個別に管理できないという問題がある。

【0007】 さらに、個々の利用者に応じた電話番号・初期設定等のメモリ情報が親機のみを設定されており、子機だけでそれらの情報を記憶、管理できないため、個々の利用者に応じた電話番号・初期設定等のメモリ情報を親機から子機に転送する動作がわずらわしいという問題がある。

【0008】 本発明の目的は、1台の携帯用通信機を複数人で使用したい場合に、複数人の情報を個々に管理でき、複数人の情報を記憶する記憶部から利用者別の個人番号を選択して、発信、及び受信できる携帯用通信機を提供することにある。

【0009】 また、本発明の他の目的は簡単に利用者を判別することができる携帯用通信機を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】 本発明による携帯用通信機は、電話番号等のデータを記憶させる記憶部を有する無線通信機において、通信機に前記データを利用者毎に記憶できる個人データ記憶部を有し、前記データは利用者毎に設定されたパスワードによって保護、及び管理されることを特徴としている。

【0011】 前記個人データ記憶部は、利用者毎に応じたPSID（個人番号）を備えていることが好ましい。

【0012】 前記パスワードは、利用者を判別できる指紋や声紋等に代用できる。

【0013】 携帯用通信機に複数人のデータを個別に記憶させる記憶部が設置され、パスワードによって利用者のデータを個別に管理でき、さらに上記記憶部から利用者別のPSIDを選択して、発信及び受信できる。従って、利用者別に電話番号、電話料金等の管理ができる。

また1人で使用すれば、1人で複数台の携帯用通信機を持っていることと同じ効果があり、私用と公用とを1台

で使い分けをすることができる。

【0014】

【発明の実施の形態】次に本発明の一実施例について、図面を参照して説明する。図1は、本発明による携帯用通信機の構成を示すブロック図であり、図2は本発明に従った動作手順のフローチャートである。

【0015】以下、携帯用通信機を携帯電話機として実施例を説明する。

【0016】まず、図1を参照して、本発明の携帯電話機の回路構成について説明する。

【0017】同図において、基地局から送信された信号は、アンテナ部1で受信され、無線部2、音声処理部3を通し、スピーカ部5で音声信号として出力され、また、マイク部4で集音した音声は音声処理部3、無線部2、アンテナ部1を通して、基地局に送出され通信が行われる。また、中央制御装置6は無線部2、音声処理部3、操作部7、表示部8及びデータ処理部9を制御している。中央制御装置6には、ユーザ検索部11が設置されている。

【0018】次に、本発明に係る携帯用通信機（携帯電話機）の動作について図1を参照して説明する。

【0019】まず、利用者の登録は、パスワードを設定することによって行う。利用者毎にパスワードを設定することによって、利用者別にブロック化された個人データ記憶部10に記憶された利用者毎のデータ（電話番号や住所録等のデータ或いは起動時の機能に関する初期設定）を利用者毎に管理することができる。また利用者別のPSID（個人番号）は、利用者別にブロック化された個人データ記憶部10に予め登録されている。このPSID毎に対応するパスワードを設定することにより、複数人の使用・個別管理を可能とする。

【0020】利用者が個人データ記憶部10に上記データを入力する場合、操作部7からパスワードを入力し、ユーザ検索部11でそのパスワードが検索できたならば、利用者毎の設定（個人用モード）に切り換える。次に操作部7から個人データ記憶部10に記憶させたいデータを入力する。操作部7より入力されたデータは表示部8に表示され、利用者は表示を確認の上、操作部7より個人データ記憶部10に記憶させるボタンを押すことにより中央制御装置6がデータ処理部9を介し、データを個人データ記憶部10に記憶する。

【0021】また、個人データ記憶部10にさらにデータを追加する場合、上述した動作を繰り返すことにより個人データ記憶部10の空き領域が無くなるまで追加することができる。

【0022】個人データ記憶部10に記憶されたデータの読み出し、或いは変更する場合も、上述した動作と同じように、まず操作部7からパスワードを入力して個人用モードに切り換える。次に読み出したいデータを操作部7より指定することによって、中央制御装置6がデ

タ処理部9を介し、個人データ記憶部10からデータを読み出し表示部8に表示し、表示部8を確認しながら操作部7より変更を行う。利用者は初期設定等の記憶されたデータに関しても同様な動作により確認及び変更することができる。個人データ記憶部10に記憶されたデータはバックアップされ電源をOFFしても消去されず、再度携帯用通信機の電源をONすることにより最後に入力したデータの初期設定の状態になる。

【0023】次に、本発明に係る携帯用通信機が発呼する場合、上記動作と同様に、まず操作部7よりパスワードを入力し、ユーザ検索部11でパスワードの検索を行う。ユーザ検索部11で上記パスワードを検索できたならば、データ処理部9を介し、個人データ記憶部10より利用者別のPSIDを読み出し、無線部2を介し、アンテナ部1より読み出したPSIDを発信する。

【0024】この時、発信するPSIDは予め基地局に登録されている。そして読み出したデータにより発呼するには、発呼先の電話番号を操作部7のボタンにより選択し、表示部8に表示された電話番号で確認し、操作部7の発呼ボタンを押して発呼する。ここで発信されたPSIDは基地局でも読み取れるので、利用者別の電話料金の管理ができる。

【0025】また着信の場合、基地局から送られるPSIDはアンテナ部1で受けて無線部2を介し、ユーザ検索部12で現在使用されている利用者別のPSIDと一致するかどうかの確認をする。ここで、PSIDが一致したら通話可能になる。基地局から送られるPSIDと利用者別のPSIDが一致しなければ通話可能にならないので、1台の携帯用通信機を複数人で使用していても、現在使用している利用者以外の電話はかかってこない。

【0026】図2は、本発明に従った動作手順を示すフローチャートである。まず、S1において操作部よりパスワードの入力を行い、S2において、入力したパスワードの検索を行い、S3にて、パスワードが検索できたかどうかの判断を行う。S3にて、パスワードが検索できたならば、S4において、利用者別の個人用モードに切り換わり、利用者毎に記憶されたデータを用いて携帯用通信機を使用することができる。

【0027】また、利用者を判別する手段として、パスワードを入力する他に指紋や声紋によって判別することも可能である。この場合、パスワードを入力する操作部7に代えて、指紋や声紋を登録し、使用時検出する回路を設ければ良い。これにより、パスワードを入力するというわずらわしさを解消できる。

【0028】また、1台の携帯用通信機に複数の信号及び記憶部を持っているので、複数人で利用するのも可能であるが、さらに個人で使用しても、仕事用とプライベート用等と分けて使用することができる。

【0029】

【発明の効果】以上説明したように、本発明では携帯用通信機に複数人のデータを個別に記憶させる記憶部が設置され、パスワードによって利用者のデータを個別に管理でき、さらに上記記憶部から利用者別のPSIDを選択して、発信及び受信できるので、利用者別に電話番号、電話料金等の管理ができる。つまり、1台の携帯用通信機を複数人で使用していても、自分だけの携帯用通信機という感覚で使うことができる。

【0030】また1人で使用すれば、1人で複数台の携帯用通信機を持っていることと同じ効果があり、私用と公用とを1台で使い分けすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の携帯用通信機の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の動作を示すフローチャートである。

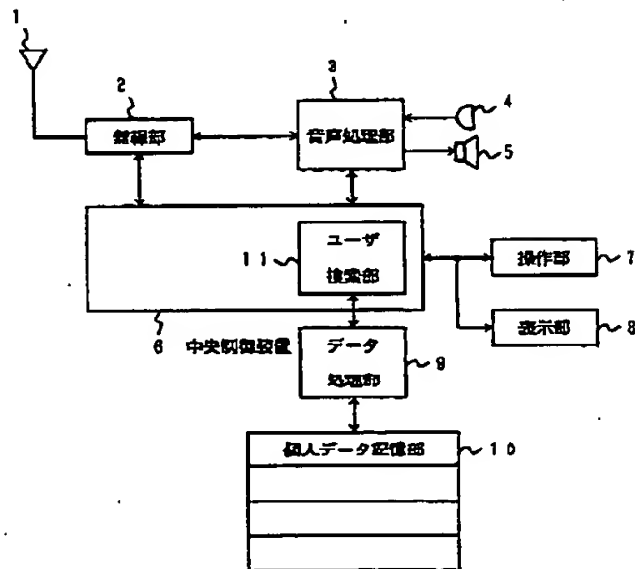
【図3】従来の携帯用通信機の構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

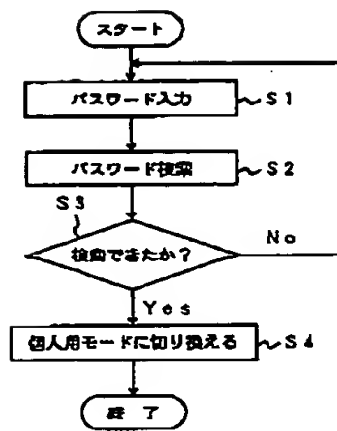
1 アンテナ部

2 無線部
3 音声処理部
4 マイク部
5 スピーカー部
6 中央制御装置
7 操作部
8 表示部
9 データ処理部
10 個人データ記憶部
11 ユーザ検索部
21 アンテナ部
22 無線部
23 音声処理部
24 マイク部
25 スピーカー部
26 中央制御装置
27 操作部
28 表示部
29 メモリ部

【図1】



【図2】



【図3】

